

第10号様式(第7項関係)

政務活動出張報告書

令和4年11月11日

会派名 公明党会派  
代表者 中川 幸次 様

出張者 中川幸次、白水敬一、宮本悦子

次のとおり、政務活動（視察調査~~視~~）のため出張したので、その概要を報告します。

- 1 出張先 青森県弘前市、八戸市
- 2 出張日時 4年 11月 8日～ 4年 11月 10日
- 3 政務活動事項 ①笑顔条例と弘前子ども議会について  
②議会タブレットについて  
③八戸ブックセンターについて
- 4 政務活動結果 復命書を添付
- 5 費用 297,630円

## 復命書

令和4年11月17日

中川幸次

- 1 視察年月日：令和4年11月8日（火）から11月10日（木）
- 2 視察先：青森県弘前市、八戸市
- 3 視察項目：弘前市「笑顔条例と弘前子ども議会について」  
八戸市「議会タブレットについて」「八戸ブックセンターについて」

### 4 視察概要

#### (1) 弘前市「笑顔条例と弘前子ども議会について」

人口約16万人で青森県内3番目の都市。面積524km<sup>2</sup>。明治になり旧制弘前高校が所在する学都としての性格を帯びるようになり、県内唯一の国立弘前大学がある。リンゴの生産が全国一の約25%を占めている。

平成23年大津市のいじめ事件の後、未来を担う子どもたちの笑顔を奪ういじめや虐待等を未然に防止するために、平成25年子どもの笑顔を広げる弘前市民条例を制定した。

「いじめ」という言葉を使いたくないということで、「子どもの笑顔を広げる」とされたところに子供たちを尊重し、温かく包み見守る心を感じました。大事なことは、市民のための条例であり、市民の責務で実践しなければならないことだと思います。そして、子どもをいじめや虐待から守ること。

3年ごとに行動計画を策定し、「挨拶運動、言葉をかけて見守る運動」「市内一斉取組日」などを市立16校区ごとに実施されていた。

また、行動計画の中で「子ども議会」の開催を行うこととし、弘前市の子どもたちが、共通したテーマで話し合う場を設定することで、自分たちの問題を自分たちの力で解決していく力を伸ばし、いじめを未然防止するための素地を養うとされていた。

私も子ども議会を提案したことはあったが、サミット形式でテーマについて話し合う方法は、初めて知りました。子供たちの幸福と成長を本当に考えた、条例に沿った取り組みだと思いました。

唐津市でも参考にしたい。

#### (2) 八戸市

##### ① 「議会タブレットについて」

人口約22万人、県内2番目の都市で、面積305km<sup>2</sup>、以前は日本一の水揚げ高の漁港であったが、現在は、工業港、フェリー港を兼ねている。

平成 25 年にタブレット導入の検討を決定し、2 年後には本格運用を開始しており、議員の意識が高かったと感じた。ペーパーレス化も目的だが、議員への情報伝達の迅速化、インターネット活用による政務活動の充実のメリットが大きいと思った。また、執行部も同時に導入されていた。デメリットはメモが取りにくいぐらいで問題にならないと思う。

端末は議会で購入し、議員に貸与、通信料は 1/2 を政務活動費で負担している。ランニングコストは、通信契約プランの見直しで軽減を図ってあった。

端末使用基準を最初に決めて、禁止事項等も定めてあり、ルールを守りながら、活用を進めることができる。唐津市議会においても、導入を迅速に、しかし、焦らず、丁寧に合意を形成しながら進めたい。

## ② 「八戸ブックセンターについて」

元々は、自治省出身の前市長が公約に掲げた「本でまちづくり」という政策が始まりで、平成 29 年度からスタート。

市内には、11 カ所の書店があるが、なかなか書店には並ばない、売れ筋ではない本、市民に読んでもらいたい本を販売されていた。素晴らしい発想だと思いました。しかも、経験豊富な優秀なスタッフを公募し、高い報酬で雇い、アイデアを生かした事業に取り組んであった。

本を書く人を増やすためのブースを備えたり、読書会ルームを設けたり、全小学生に 2,000 円分のマイブッククーポンを配布し、本を買って手にとるという体験をしてもらったり、小学校、高校・大学との連携し、本と出会う場を創出するなどに取り組んであった。

本当に目から鱗が落ちる感じだった。本でまちづくりができるとの思いを強く感じました。

唐津市も未来に向けて新たなまちづくりの一つの柱となるものが必要ではと考えていたので、本によるまちづくりはヒントになりました。

以上

# 公明党会派視察復命書

唐津市議 白水敬一

- ・期日 令和4年11月8～10日 1泊2日
- ・視察地 青森県 弘前市 八戸市

今回の会派視察は、来年度「子ども家庭庁」が設置されるのにあたり、子どもについての項目・事業を視察した。今年8月の議員セミナーは福岡市の会場での講師による講演だったのに比較すると、やはり現地に行き自治体の事業を実施した担当者からその事業の主旨・目的、経過そして成果を直接伺うことは重要であると再任した。

今回の視察は青森県の為、福岡からの直行便がなく、行きは愛知県小牧空港経由で青森空港から弘前市へ。そして八戸市からの帰路は新幹線で仙台駅経由で仙台空港から福岡空港へそして唐津市へのコースであった。

## \* 青森県 弘前市

- 1, 子どもの笑顔を広げる弘前市民条例について
- 2, 弘前子ども議会について

弘前市は人口16万4381人で青森、八戸に次ぐ3番目の都市であり40万人の商圏でもあるが、平成18年の合併からは約3万人の減少となっている。

### 1, 子供の笑顔を広げる弘前市民条例

この条例は「いじめや虐待のないまちづくりをめざして」との副題がある。「子供たちが毎日笑顔で過ごすことができるように市民みんなの手でいじめや虐待などが起きないように「まち」学校や地域つくっていく」ことを目的にいじめを表題にあげず、笑顔を広げる条例にしたことが注目。全国からの視察が相次いでいるとのこと。その内容については、別添行動計画が詳細に記載してある。

計画の期間は3年間として、最終年度には行動計画全体の見直しをして次の計画を策定する。青森県では初の取り組みであり、東北地方でもまれな内容であり、大いに参考にしたい。そして議会の一般質問でも提案したい。

### 2, 子ども議会について

唐津市においては「女性議会」は平成10年に開催したが、「子ども議会」は夏季休暇期間に虹の松原において研修会等は開催したが、正式な議場においては開催していない。さらに全国的にはぎじょうでの子ども議会は数

多くの自治体で解されているが、「サミット形式」方式ではこれまでほとんど開催されていない。

各学校で共通のテーマに基づいて事前に話し合い、それを議会で発表して子どもたち同士で議論する。一つ目のテーマは前年度の「子ども宣言」を基にした各学校の活動を紹介する。二つ目のテーマは各校からのアンケート等基に毎年設置し、議論したことを「子ども議会」としてまとめる。

スケジュールも7月に実行委員会を経てテーマを決定。内容スケジュール決定も5か月間の周到な計画。準備等を含めての開催は素晴らしいと思った。当初は各学校からも反対の声も上がったが、教育委員会の懸命な取り組みが実現の要因と思われる。唐津市においてもこのサミット形式の子ども議会の開催を峰市長に提案したい。

\* 11月10日 青森県 八戸市

- 1, 議会タブレット導入について
- 2, 八戸ブックセンター日手

#### 1,、議会タブレット導入にいて

唐津市においても導入・配布についての協議が以前から行われてきたがなかなか進まない。導入までの経過とタブレットの活用方法、そのメリットデメリットについてさらに8%の結果を得た。これを受け、不動産流通関連導入費用とランニングコストについて様々説明を伺った。ランニングコスト月5502円は政務活動費で議員負担。さらに導入後の課題と対応又契約プランの個人制限についても丁寧に説明してもらった。唐津市も「議会制度検討委員会」での導入に向けての協議を期待したい。

#### 3, 八戸ブックセンターについて

全国初の全く新しい書店のかたちであった。2016年オープン、前市長の公約だった。

- ・本を読む人を増やす
- ・本を書く人を増やす
- ・本でまちを盛り上げる。

本を読む人が激減して、市内の書店が閉鎖されている現状を憂いて、自治体の書店と違って、本の貸し出しを増やすより、本を購入する人を増やすことを目的にしての事業である。マイブック推進事業では小学生を対象に毎年児童一人当たり2000円のブッククーポンを配布する事業。セレクトブックストアや本を買って手に取るという体験。市に直営施設が本を販売。学校との連携や施設の活用等様々なあつと驚く事業を展開できたのも東京の有名な書店から専門のプロ(店員)を雇用して(会計年度職員だ

が、課長級の報酬) 次々に事業を立ち上げたことも成功といえる。

ブックセンターの視察時、ウイークデイの昼間でも大勢の市民の方が入り込んでいた。そのにはコーヒーショップもあり、本を見る人、購入する人、また文章を書く人(そのブースが2部屋) 本当に賑わっていた。

この事業についても唐津市の実情に応じて実施するよう提言したい。

# 公明党会派視察復命書

令和4年11月11日

報告者 宮本 悦子

## ●視察地 及び 調査項目

- ① 青森県弘前市 ・笑顔条例と弘前子ども議会について
- ② 青森県八戸市 ・議会タブレットについて  
・八戸ブックセンターについて

●視察日 令和4年11月8日(火)～10日(木) 1泊2日

## ① 弘前市

人口16万4,381人で県内3番目の都市。面積は524.2 km<sup>2</sup>。

津軽10万石の城下町弘前市役所の目前には、総面積約49.2万㎡もある弘前公園があり、市民の憩いの場、四季折々の工夫を凝らした観光名所ともなっており、そこに弘前城がありました。

平成18年、弘前市、岩木町、相馬村の3市町村が合併し、新弘前市となっている。

全国の生産量の約1/5を占める日本一のりんごの産地、山肌にはりんごの木が一面に連なっており、市には「りんご課」がある。

・「子どもの笑顔を広げる弘前市民条例」について

近年、社会全体で子どもを育てることの重要性が問われているなかで、いじめや虐待を許さない社会を、子どもの笑顔を広げるという点に着目し、条例をつくり、サブタイトルに「いじめや虐待のないまちづくりを目指して」とされ、行動計画を策定されている弘前市さまのお話を是非聞きたいと思い視察地に計画しました。

子ども達が、毎日笑顔で過ごすことが出来るように、市民のみんなの手で、いじめや虐待などが起きない「まち」(学校や地域)をつくるために、条例を定め、

a 大人は、子ども達とのかかわりを大切にし、みんなで協力して子どもを守ります。

b 子ども達に伝えたいことは、誰もが自分らしく生きる権利があり、いじめはどんな理由があってもいけない事、悩みやつらく悲しいことがあるときは、いつでもだれにでも相談してほしいという事

。

等を定められている。行動計画は、計画期間を3年間とし、期間の最終年度に行動計画の全体を見直し次の計画を策定することとしている。

行動計画には、家庭、学校、地域、それぞれの役割と取組みを明らかにし連携することを定めている。

大人、子ども達、市の取組みとして、①あいさつ運動、ことばをかけて見守る運動、②子ども議会がある。

条例や行動計画の周知は、毎年4月に小・中学校長会議に手条例や行動計画を配布し、学校、家庭、町内会や関係機関には、条例周知ポスター、リーフレットを配布。(令和5年度はのぼり旗を配布予定)

平成25年に制定した条例、行動計画は、H27に一部改正(H28、4施行)、H30に全面改訂(H31、4施行)、R3行動計画の見直し(R4、4施行)されながら実行されている。R3年の改正の時は、教育委員会各課、子ども家庭課で構成されるプロジェクトチームを立ち上げ、改定の案の検討及び作業を行っている。

#### ・子ども議会について

子ども達が未来や将来の夢に向かって、自分たちにできることなどについて、発表・話し合いをすることを通して、次代を担う人材を育成することをねらいとして開催。

議会形式ではなく、サミット形式で開催。現在はコロナ禍を考慮し、中止されているがR5の実施に向けて、今準備を進められているとの事でした。

H23年度の1回目から8回までは、午前は小学校議会、午後は中学校議회를別々に開催。R元の9回は、校種の違いを超えた話し合いを通して、小・中合同開催。52校あるため、3ブロックに分けて、3年間で全ての学校が参加できるようにされている。

各学校で、共通の2つのテーマに基づいて事前に話し合い、話し合ったことを代表者が子ども議会に持ち寄って発表し、子どもたち同士で議論する。

1つ目のテーマは、前年度の子ども宣言を基にした各校の活動報告(成果と課題等)、2つ目のテーマは、各校からのアンケート等を基に毎年設定し、議論したことを「子ども宣言」としてまとめる。としていて、スケジュール的には、7月の実行委員会開催から、12月の子ども議会開催までに、テーマのアンケート配布回収、しおりの作成、送迎計画、リハーサル等、また議会終了後には、記録集の作成等、1年を通しての活動となっている。

市内の全小・中学校の子ども達が、同じテーマのもとで話し合うよい機会となっており、議会での話し合いは、その後の各学校における児童会・生徒会活動などに生かされているようです。参加した子ども達にとっては、議場で活動することは貴重な経験となっている。また、参加しない子ども達も各学校



での話し合いで参加していることとなっている。リハーサルでは議会事務局の方が、議場での行動や決まり事などを指導説明され議会に対する理解を深めているそうです。

子ども議会を通して、わがまちをどんな町にしたいか。将来の弘前市に、今私たちに出来る事は。多くの観光客が弘前を訪れるようにするには、どんな町にしていけばいいか。そのためにみんなが出来る事は何か。いじめのない学校にするためにはどうすればいいのか。などなど、テーマに沿ったことを自分たちで考え、意見をいい、人の意見を聞き、行動につなげていく。様々な問題を自分たちで解決していく力を育てていく取組みなっていると感じました。

説明して下さった3名の教育委員会の方は、元々小中学校の教諭といわれていました。当時、現場で子ども議会に携わったと言われていました。始めは、大変だと思ったと言われていましたが、子ども達の成長する姿が原動力となったようでした。

すべては、子ども達の笑顔を広げて、幸せを実感し、将来に向かっていく力を付けていく為の取組みです。本市でも参考にしたいと強く感じました。

## ② 八戸市

八戸市は人口22万2,015人、面積は305.56km<sup>2</sup>。

青森県の南東部に位置し、全国屈指の水産都市であり、北東北随一の工業都市でもある。平成17年に南郷村と合併し、海と山の魅力を併せ持つ、新八戸市となっている。

### ・議会タブレットについて

全国的に進んでいる議会タブレットだが、本市では全く進んでおらず、早期に導入されている八戸市の活用状況や導入に至った経緯等勉強したく、視察させて頂いた。

八戸市議会では、反対する議員はいず、導入する方向性をもって、平成25年7月に、先進地視察として埼玉県飯能市議会へ議会運営委員会にて「タブレット端末導入について」を視察。

翌月8月には議会改革事項としてタブレット端末導入の提案があり、検討が決定。

5か月後、H26年1月にNTTドコモによるデモンストレーションを実施。

H26年12月には全員協議会で導入が決定している。

H27年7月議員へタブレット端末を配布し、暫定運用の開始。

同9月タブレット端末及び会議システムの本格運用が開始されている。

迷いなくスムーズに進んでいることに驚いた。機械に得手不得手はあるものの反対者もなく、先を見た行動だと感じた。会派内でお互いに教えあっていたようだ。

導入の目的は、ペーパーレス化の推進、議員への情報伝達の迅速化、インターネット活用による政務調査活動の充実である。

メリット・デメリット等もお聞きしたが、モアノートではメモが取りづらいとの声があるくらいだと感じた。

本市でも、取り入れる方向で、早急に進めていきたい。

#### ・八戸ブックセンターについて

八戸ブックセンターは全国初の新しい書店のかたちです。これは、前市長の公約で、そこからスタートしていた。市内に書店が減ってきたこと(現在11店舗)、売れ筋ではない本や読みたい本、市民に読んでほしい本が市内にまわってこない現状をどうにかしたい。まちづくりに取り組む書店としてオープンし6年。今の市長に受け継がれている。

1、本を読む人を増やす。2、本を書く人を増やす。3、本でまちを盛り上げる。3つの基本方針を決めて実行されている。このキーマンとなるブックコーディネーターとしての人材を全国からの公募し、移住して活動されている。

また、ブックセンターは民間書店や公立図書館、学校図書館とも連携しサポートしている。

本市では、ブックスタート事業、セカンドブックスタート事業(絵本とこんにちは事業)を実施しているが、八戸市では、ブックスター事業に加えて、「マイブック推進事業」を小学生を対象に実施されていた。「マイブック事業」とは、2000円分のマイブッククーポンを市内の小学生全員にお勧め本リストと共に配布している。市内限定の書店で購入可能とし、子ども達が自分の本棚に毎年入れて欲しいという願いが込められている。

本を読む人を増やすために講師を招いて、本を軸にしたアカデミックトーク等を実施されている。

また、学校とも連携し、本を選んで手に取る体験づくりや出張ブックトーク、月1回の学校図書館司書研修会では、子どもの本についての意見交換や情報提供もされている。

市民が本に触れる機会をつくるために、市内全域に拡がる本棚スポットとして、ブックサテライト増殖プロジェクトをされている。市内の小売店屋飲食店、公共施設に呼ぶかけ、「ブックサテライト」として小さな本箱を設置。本箱の中にはそれぞれの施設に合わせた選書をして、ちょっとした時間を過ごすところに、その場所にあった本がある「まち」を目指されている。各施設からは、お客様の待ち時間を豊かにしているとの評判らしい。

市内小学校の図書室に、市内書店では手に入りにくい本を中心に選書、配架することにより、子ども達に新たな本との出会いを創出するなど、図書室の環境整備を目的にクラウドファンディング(R3年11月1日~R4年1月30日)を実施され、R4年6月に市内全小学校42校に1校当たり33冊の本を購入して配架されている。

八戸ブックセンターは、「Library of the Year」

において昨年「特別賞」を受賞されている。

活字離れが指摘されている近年、本を読み、書き、話すことで、本好きを増やす本のある暮らしの拠点として、公営の書店としての公共サービスの在り方を学んだように思います。

本は心を豊かに育てていくひとつとして、参考にしていきたい。

弘前市役所にて



八戸市役所にて



第10号様式(第7項関係)

政務活動出張報告書

令和5年 1月30日

会派名 公明党  
代表者 中川 幸次 様

出張者 中川 幸次  
白水 敬一  
宮本 悦子

次のとおり、政務活動（調査研究）のため出張したので、その概要を報告します。

- 1 出張先 静岡県藤枝市、神奈川県大和市、神奈川県横須賀市
- 2 出張日時 令和5年1月24日～令和5年1月26日
- 3 政務活動事項 藤枝市：健康・予防日本一“ふじえだプロジェクト”  
大和市：文化創造拠点「シリウス」現地視察  
横須賀市：終活支援事業
- 4 政務活動結果 別紙のとおり
- 5 費用 318,720円

## 復命書

令和5年1月30日

報告者 中川幸次

1 視察年月日 令和5年1月24日(火)～1月26日(木)

2 視察先 静岡県藤枝市、神奈川県大和市、横須賀市

3 視察概要及び所感

(1) 藤枝市 「健康・予防日本一」ふじえだプロジェクトについて」

- ・市の重点戦略：4K施策（健康、教育、環境、危機管理）、それぞれにマイレージがあった。
- ・特定健診受診率日本一、市民の健康づくりがまちづくりの基本に。
- ・楽しく健康づくりができるように、たくさんのアイデアを実施されていた。
- ・健康企画課と健康推進課の2課体制で、健康企画課がアイデアづくりに取り組まれていた
- ・部ごとに予算配分され、毎年各課は戦略的事業を提案しなければならない。
- ・市民に喜んで住んでもらうため、アイデアを出して懸命に取り組んであると感じた。

(2) 大和市 「文化創造拠点シリウスについて」

- ・市内の北部、中央部、南部に図書館があり、市全体が「図書館城下町」で、シリウス全館が図書館だった。
- ・市民のための居場所としてサービスを充実するため民間6社が運営に参加し、指定管理者も民間であった。
- ・市立図書館である3階から4階以外は、民間が入り、有料サービスだが、多くの利用者があった。
- ・子どもから高齢者まで全世代向けサービスが充実し、稼働率は全て90%台。
- ・交通の便が良く、歩いて寄れるところで、市外の利用者も多かった。唐津の土地に会った市民の居場所をつくっていかねばならないと思った。

(3) 横須賀市 「終活支援事業について」

- ・一人暮らしや高齢者のみの世帯の増加により、身元はわかるが引き取り手のない遺骨が急増し、墓地埋葬法第9条（死体の埋葬又は火葬を行う者がいないとき又は判明しないときは、死亡地の市町村長が、これを行わなければならない。）の対象となっている。葬祭扶助費21万円を市が負担しなければならない。死亡者の預金はあるのに使えない、最後は国庫に入る。

- ・エンディングプラン・サポート事業

市が支援し葬儀社と 26 万円で生前契約し、身寄りがない低所得者の市民の尊厳を守る。葬送に関して生前意思が尊重されるようになった。

- ・終活情報登録伝達事業

連絡先が分からない、墓がわからない、契約葬儀社の契約先が不明などの課題を解決するために終活登録事業は重要である。電話 1 本で登録できる。また、電子申請もできる。

- ・人間の尊厳を守るため、生前の意思が尊重される終活支援事業であると思いました。生きているうちにもしもの時の安心を得られるのは、生の充実につながるものと思いました。

- ・唐津市の高齢者も様々な困難な課題を抱えておられる方も多い。終活支援事業に取り組む中で、高齢者の安心サポートを更に広げていけるのではないかと思います。

- ・予算 51,000 円 再任用職員 2 名、相談員 1 名（自立支援、アウトリーチ国庫 3/4)

以上

# 令和5年度公明党会派視察復命書

唐津市議 白水敬一

- ・ 期日 令和5年1月24～26日 2泊3日
- ・ 視察地 静岡県 藤枝市 ・ 神奈川県 大和市 ・ 神奈川県 横須賀市
- ・ 視察項目 1, 藤枝市 『健康・予防日本一』ふじえだプロジェクト  
2, 大和市 文化創造拠点「シリウス」現地視察  
3, 横須賀市 終活支援事業

## 1, 藤枝市 「健康・予防日本一 ふじえだプロジェクト」

雪の影響で、福岡空港発が約45分遅れて、藤枝市へはぎりぎりの到着となり、昼食は空港からのバスの中でのおにぎりとなった。

面積194km<sup>2</sup>と唐津市の4分の1 人口は14万人 高齢化率は30,8%と高い。この事業は4期目の北村市長の公約の事業であった。それは素晴らしいプロジェクト事業で大きな成果を残している。

暮らしの基本(4K施策)

健康・教育・環境・危機管理 まちづくりの1丁目1番地は市民の健康づくり、都市の健康はそこに住む市民の健康の礎との信念からのプロジェクトである。

何しろ「特定健診の受診率」が全国平均で38%なのに、唐津市は33,8%で藤枝市は48%で断トツ、人口10万以上の市で県内1番である。すごい一言である。その状況やプロジェクト事業を視察した。

平成25年3月26日第1回アワード自治体部門の厚生労働省健康局長優良賞。その後『健康寿命延伸都市協議会』を発足。それから「みんなで作る健康都市」市民・事業者・行政が一体となって推進していく。

そこには「守る健康」約1000人の保健委員体制。開始から50年。自治体の枠組みで30年以上、市内に12支部、自治会長・町内会長の当て職(約250人) 保健委員は60～80世帯に1人(約750人) 地区担当として、市の保健師を配置し、健康づくりを支援。

そのほか、素晴らしい事業が次々に実施され、完璧なプロジェクトを実現して大きな成果を上げている。唐津市も大いに参考にすべきであり、担当課にも資料を渡し、情報を共有して一般質問等して実現を目指したい。

- ・ 「創る健康」無関心層へのアプローチ
- ・ 「創る健康」運動・休養・食事・歯や口ヘルスリテラシーの向上

- ・楽しく歩く運動習慣  
「歩いて健康 日本全国バーチャルの旅」
- ・ふじえだ健康スポット20選 5月1日～31日 健康ウォーキング
- ・健康アプリ「あるくら」平成28年10月22日～
- ・ふじえだ食育グルメフェス 平成29年～
- ・野菜を食べて健康フェス
- ・健康経営実践プログラム 平成30年～  
市一商工団体一医師会・企業
- ・健康経営事業費補助金 令和2年～
- ・元気ふじえだ星空フェス
- ・民間活力を導入 「包括連携協定」の締結

## 2, 大和市 文化創造拠点「シリウス」

大和駅から徒歩3分、神奈川県を中心部にあり、交通網利便性が最高の地域である。国県道等交通網を地下に移転したことで広大な空間が生まれ、民間会社（相鉄が主）6社での共同企業体により、国・県から163億円の補助金を含め、総事業費213億円で平成28年に完成した。

子どもから大人まで多くの皆様に芸術文化や生涯学習の素晴らしさ、新しい知識・人との心弾む出会いをお届けして、一体感を生み出す場として誕生した。

駅からの通りには「図書館城下町」との表示看板。本拠点のシリウスの外中央林間図書館、市民交通拠点ポラリス、つきみ野学習センター、澁谷学習センターも併設している。シリウスは全館が図書館で、メインホール防音設備も完璧で客席が約1000席。サブホール、ギャラリーの外、大和こどもの里（元気っこ広場・ちびっこ広場・子ども図書館）仲間と集い学ぶ生涯学習センター等充実している。

年間の利用者はその30%が市外との事。図書館で過ごし、集い学び合っ  
てその帰りに飲食店での歓談が経済効果をかなり生み出しているとの事。

唐津市においても、現在市民会館の建設が進められていることから、50年に60年における設備の内容を考えると将来を見越した充実が必要であると感じた。



### 3 横須賀市 終活支援事業,

人口 38万人 面積 100km

素晴らしい事業であった。

担当で説明者の市役所定年再雇用の福祉専門官「北見氏」は、この事業を平成27年度から立ち上げた第1人者。大学や各自治体への講義・説明等を行っている有名人でもある。テレビのクローズアップ現代でも取り上げられた。

世帯数 単身世帯 2015年34,5%が2040年には39,3%と推測されている。

引き取り手のないご遺骨の火葬や職員による安置等している。さらに骨と壺を分け、壺は産業廃棄物として処分して、お骨は合葬墓にまとめている。

- ・ エンディングプランサポート事業 本人と市役所と葬儀社の契約事業。
  - ・ 支援・履行をしている事業。
  - ・ 終活登録事業
    - ・ 墓がわからない
    - ・ 葬儀社との契約
    - ・ 死後事務委任契約は履行担保
    - ・ 全市民に向けての私の終活登録事業
    - ・ 詳細な内容とコロナ禍での電話での登録やエピソードを紹介
- 充実した視察、唐津市にも導入するべく提案を行いたい。

## 公明党会派視察復命書

報告者 宮本 悦子

◎ 視察日 令和5年1月24日(火)～1月26日(木)

◎ 視察地及び視察項目

①静岡県 藤枝市

・“健康・予防 日本一” ふじえだプロジェクトについて

②神奈川県 大和市

・文化創造拠点シリウスについて 現地視察

③神奈川県 横須賀市

・終活支援事業について

① 新潟市 “健康・予防 日本一” ふじえだプロジェクトについて

人口 142,387 人、世帯数 61,208 世帯、平均年齢 48.30 歳、

高齢化率 30.8% (5年前は 26%)、面積 194.06 km<sup>2</sup> < R4.12.末現在 >

市の重点戦略・・・「暮らしの基本」4K(健康・教育・環境・危機管理)施策を

「都市の健康は、そこに住む市民の健康が礎」との理念をもち、住み慣れた町で、健康で  
幸せに暮らすために様々なプロジェクトに取り組み、素晴らしい成果を出されていた。

「みんなで創る健康都市」を市民・事業者・行政が一体となって推進されている。

(市民が知らなければ、やっていないことと同じ!と言いきられるほど自信が伝わる)

「守る健康」市民の健康関心度が高く、特定健康診査受診率が 48.4%と静岡県内人口 10  
万人以上の市の部で第 1 位(全国が 38%)

受診率を高める工夫は、「人さらい検診」と言われたが、医師会が地域にバスを出す、タ  
クシーを利用するなど交通弱者が検診に来やすいようにされている。

大まかな地域割り受診をするようにし、予約不要で検診可能とした。

国保は個人事業主の方が多く、行きたい時、行ける時が予約でいっぱい受診しづらいと  
いう状況を改善。(コロナ禍は要予約としている)

また、市内 12 支部、約 1000 人の保健委員体制で健康づくりを支援されている。この取り  
組みは開始から 50 年、自治体の枠組みで 30 年以上継続されており、市民の 2 万人が経験  
者という。自分が経験することで、健康に対する意識が大きく変わっているようだ。

「創る健康」では、楽しい・お得の切り口から健康へアプローチする様々な工夫の歩く  
健康づくりを楽しくされている。お腹いっぱいになるような多くの事業をやり通して結果  
を出されていることに感銘を受けました。

② 大和市 文化創造拠点シリウスについて

大和駅を降り、広い歩行者専用道路を歩いていくと街灯に「図書館城下町」ペナントが下

がっており、一気に興味をそそられる。

シリウスは外観も洒落た6階建ての素晴らしい建物。コンセプトは全館が図書館であること。本はICで管理されており、建物内では自由に移動できる。1階から6階まで、それぞれの階に多くの利用者でいっぱいでした。

メインホール1007席、サブホール272席(収納可能席)、ギャラリーの他、げんきっこ広場(有料)、ちびっこ広場(無料)、こども図書館、保育所(1時間500円で4時間まで)、仲間と集い学ぶ生涯学習センターなど、若い方から高齢者まで、家から一歩外へ出かけようと呼びかけられている。人口的に若い方が増えてきていると言われたが、子ども連れのお母さん方を多く見かけた。子育てがし易い環境なのだと感じる。

保育所も1日20人ぐらいは預かれるようで、シリウスを利用時だけでなく、買い物や美容室に行く時、ちょっとリフレッシュする時にも要予約で利用可能で、休日は12月31日と1月1日のみ、日曜祭日も利用でき、子育て世代にはありがたい。

### ③ 横須賀市 終活支援事業について

◎「エンディングプラン・サポート事業」・・・身寄りがない低所得の市民の尊厳を守る対象者を独居、頼れる身寄りがない、低所得、少資産と限定し、本人と市役所そして葬儀社間の契約事業となっている。

市が葬儀社に最低費用での協力を呼び掛けたところ、始めは4社だったが、今では10社をなっている。

市は、ご本人に対し相談訪問を行い、葬儀社の情報提供や生前の安否確認訪問をしながら、死後は納骨まで見届ける。本市でも葬式の心配をされている高齢者は少なくない。

◎「就活情報登録伝達事業」・・・(わたしの終活登録)すべての市民の尊厳を守る連絡先が分からない時代になった。ご近所でも詳しくは知らない。

墓があっても、本人が亡くなった後、誰も知らない。また、葬儀社に生前契約していても、伝えていなければ、分からないなどの様々な問題を解決するための事業として開始。

元気なうちに安心して繋がる終活情報を市に登録する制度です。

- 1) 本籍・筆頭者
- 2) 緊急連絡先
- 3) 支援事業所、終活サークルなど
- 4) 医師、薬、アレルギー
- 5) リビングウィルの保管場所
- 6) エンディングノートの保管場所
- 7) 臓器提供に関する意思表示
- 8) 葬儀・納骨・遺品整理の生前契約、献体の生前登録
- 9) 遺言書の保管先
- 10) お墓の所在地
- 11) 自由登録事項(自分で書いておきたいこと)

新しい住民票のようなものといわれていたが、実際、頼れる人がいない一人暮らしの方が突然亡くなられた時、親族を探し意思を確認することにかかなりの時間を要することも多く、このような取組みがあれば、本人の意思を最後まで尊重できると感じた。

この3日間、全て素晴らしい取組みを勉強させて頂き、本市での活用も含め検討したい。